

日刊 動労千葉

81.11.2
No.884

国鉄千葉動力車労働組合
千葉市要町二一八(動力車会館)
(鉄電)二九三五ノ六(公衆)四五三二七二〇七

総評
解体の
危機

あきら

右翼的労働戦線「統一」問題を考える

右翼労働戦線「策動」に合意していた榎枝・富塚執行部
つぎに、総評榎枝・富塚執行部が、反動的な右翼労働戦線「統一」攻撃に対していかなる対応を行なっているのかについて明らかにします。

まず、総評執行部は、同盟・J・C「統一推進会」の発足に、合意し、更に、「基本構想」が当初、本年五月の段階でまとまっていたものを、総評の注文で修正させ、総評執行部の合意のもとに六月発表が行われたことです。
このことでも明らかのように、総評榎枝・富塚執行部は、「統一推進会」の発足から「基本構想」の発表まで全てを承知し、承認を与えていたのです。
しかし、この「基本構想」の反動性、反階級性に対する広範な労働者の反響が起るや「五項目補強見解」への春闘を評価すること。②反自民で全野党が結集すること。③「統一準備会」への選別加入反対。④中小・未組織労働者の結集。⑤企業主義の克服。⑥を条件として出し、これに対する「統一推進会」側よりの「基本構想」は一言半句の修正も出来ない」という強硬な態度の前に屈服し、「五項目補強見解」を、絶対条件から、努力目標に後退させ、さらに「基本構想」を大筋で理解することを前提として、

総評としての「統一見解」をつくり、「民間単産の一括なれ込み参加」をうち出しました。

榎枝・富塚の裏切り路線弾劾!

そしてまた、この榎枝・富塚執行部の屈服とギマンに対する反響が起るや①「基本構想」に異る意見を持つ単産も参加を保障する。②「選別排除された場合は総評の全民間単産が参加を留保する」というように手直しの動搖をくり返しています。
しかし、われわれは、今日の右翼労働戦線「統一」攻撃が明白に、支配階級の軍事大団化・改憲攻撃をもってする戦争と反動政策の一環として、総評労働運動解体・破壊「産業報国会化」をめざした攻撃であることを見据えなければなりません。そして、こともあろうに総評執行部がこの攻撃に屈服し、むしろ逆に、右翼的再編の中でなんとか自らの「主導権」を握ろうとしている裏切りの対応を絶対に許してはなりません。
そもそも「統一」という攻撃が唯一「総評の解体」同盟・J・C型への変質、引込みを目的としているが故に、それは「幻想」にしかすぎない事は明白です。(以下次回)

10月31日、「10・31寺尾差別判決」糾弾、狭山再審要求中央総決起集会」が東京・明治公園に三万名を越える解放同盟・労働者・学生を

無実を証明する
新証拠、発見される
集会は、司会あいさつのあと、解同中央本部からの基調報告が

察のかくし持っている全証拠の開示を行わせよう。現地調査を強め、家族・部落・地域の嵐のような声援で再審を貫徹しよう

三万名が結集し、10・31狭山闘争 闘われる 動労千葉60名で参加

は、青年部を中心に60名で参加し、部落解放同盟千葉県連と共に集会、デモを最後まで貫徹した。

提起された。「石川氏を一日も早く奪還するため、発見された新証拠の事実調べを行わせ、検

する決定的証拠をいくつもかくし持っているのだ。先に発見された新証拠というのは、「犯行